

文献複写 Web 申込システムの開発による業務プロセスの改善について

石谷真

東京医科大学図書館分館

医療従事者が行う文献探索活動は、文献入手に至るまでの事務的プロセスが煩雑である。

当館では学内・学外所蔵資料ともに複写作業を図書館員が対応しているが、利用者が複写を依頼する事務処理の効率化が課題であった。そのため伝票処理システムを開発し解決した。同時に、手書きの複写申込書の判読などに手間がかかっていた図書館業務の改善も達成できた。

1. システムの概要

PubMedや医中誌Webなどの文献データベースの検索結果を外部のサーバーにエクスポートし、申込伝票の形式に加工する。これを図書館側で受注として読み出すクラウドサービスである。

このWebプログラムの構築・管理を外部委託し、2006年より「文献複写Web申込システム」は稼働している。複数の複写依頼を一括して申し込みできる点が、本システムの特徴である。なお、各社の図書館システムに付随する複写依頼ツールでは、1件ずつの発注のみである。

2007年、上記業者と医学中央雑誌刊行会、本学図書館の三者共同で「ダイレクトエクスポート」を考案、開発した。これによりきわめて効率よく医中誌Webの検索結果を複写申込に反映できるようになった。

2. 主な改修内容

- リンクリゾルバとの連動機能を追加（2011年）。リンクリゾルバで電子ジャーナルが見当たらなかった場合に、ただちに複写依頼ができるようになった。
- 文献データをRIS形式でのインポート、エクスポートに対応し、EndNoteとの相互連携が可能になった（2015年）。複写依頼のログをEndNoteで管理したり、逆にEndNoteのリストから図書館へ複写の依頼ができる。これにより文献の検索、整理、入手の連携がシームレスに行えるようになった。
- この汎用なRIS形式に対応したことで、CINAHL（2015年）やScopus（2017年）などのデータベースも文献複写Web申込システムに対応できるようになった。
- 電子ジャーナルの本文へのリンクボタンの設置した（2016年）。

3. システムの効果と考察

このようにさまざまな改良を重ねた結果、現在では単なる複写申込システムではない、文献調査支援システム（Information Retrieval Support System）に発展している。

本システムは利用者が文献管理を行う際にたいへん好評であり、医療従事者の事務負担軽減と、図書館の作業の効率化に寄与している。

本事例のように、既存に市販されていないプログラムを企業などと共同開発することは、大学図書館の業務改善に有効な手法と考えられる。

今後は、さらに学内利用者に本システムの活用を促進する事と、将来、学術認証フェデレーションに本学が加盟した時には対応改修を行い、シングルサインオンを実現したい。